

宮城

共に学び、行動する民間ユネスコ運動へ

平和で持続可能な世界の実現を目指し、



宮城県仙台市



公益社団法人 仙台ユネスコ協会

ユネスコ憲章前文「人の心に平和の砦を築く」に賛同し、 世界初の民間ユネスコ協会を設立した先人の思いを 原点に、ユネスコのESD for 2030に取り組む

1947年の協会設立から77年。戦後復興の文化・教育の一端を担い、
今も続く「子ども絵画展」「国際交流事業」「ユネスコカレッジ」など
を開催してきました。設立70年目の2017年からSDGsへの取組を掲
げ、2020年に「キリバスプロジェクト」を開始。キリバス共和国に【民
間ユネスコ協会】立ち上げという目的を達成し、首都タラワ市に設立
された【ツンガルユネスコ協会】と共に、「共創プロジェクト」に取り
組んでいます。コロナ禍期間はオンライン講座で国際交流の幅を広
げたり、ユネスコカレッジに防災の視点でみちのく潮風トレイルを
組み込んだりと、時代に沿った、幅広い活動を展開しています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: キリバスのSACRED HEART COLLEGEとオンライン交流を
した宮城県多賀城高等学校語学研究部の生徒たち
下左: 青年部が仙台の伝統行事「七夕まつり」に「平和祈念七夕」で
参加。右端のくす玉と吹き流しがキリバスの国旗を表している
下中: 2018年の第1回ESD講座
ESD/SDGsへの取組はここから始まった
下右: ツンガルユネスコ協会設立報告のシンポジウムで、
キリバスからオンライン参加する主要メンバー

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目1-1
仙台第一生命ビル5F (～9/17)
〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町1丁目8-13
仙台共立第一ビル4F (9/18～)
電話 022-224-2581
FAX 022-302-3406
E-mail sendai@unesco.or.jp
URL https://unesco.or.jp/sendai/



活動紹介

ユネスコセミナー 「産学官民で取り組むSDGs」 ～企業としてSDGsにどう向き合うべきか～



講師・話題提供企業・学校に多くの質問があり、
関心の高さが感じられた



セミナー会場の様子。様々な業種の企業が集まった

プロジェクト概要

SDGs推進のコーディネーションを掲げるユネスコとして、
会員法人団体と連携してSDGsを推進したいとの考えから企画
しました。所属する80の企業、学校法人に「SDGsの取組に関する
アンケート」を実施、『現在取り組んでいる目標は【G4教育、G7
エネルギー】、今後取り組みたいのは【G13気候変動】』という
上位結果を受けて、気候危機に対応する地域脱炭素の具体的
推進を柱に組み立てました。①行政による講演、②企業法人
による話題提供、③情報交換と3部構成にし、①では、
環境省東北地方環境事務所総括環境保全企画官と仙台市
環境局地球温暖化対策推進課長の講演、②では、(株)七十七
銀行、(株)ユアテック、仙台ターミナルビル(株)、(学法)朴沢
学園の話題提供と、非常に濃い内容となりました。それらを受
けた③では、企業間、企業と教育との連携に関心が集まり、
活発な質疑が交わされました。

ESD実践のポイント

会員法人が80団体あれば、業種、企業規模は様々です。
アンケートの中位回答は『現在取り組んでいる目標は【G8経済
成長と雇用、G11住み続けられるまち、G12生産と消費】、今
後取り組みたいのは【G5ジェンダー平等】』でした。こうした
多様な立場やニーズにどう応えるか、その方策として同アン
ケートから見えたのは、情報共有と連携・協働への関心でし
た。セクターを超えた対話と連携がSDGs推進には必須と考
えられる今、民間ユネスコ協会の役割は、グローバルな視
点での地域SDGsのコーディネーションであると認識してい
ます。○地域レベルでの活動の促進、○国内・海外への情
報発信と連携、○ユネスコ協会間のつながりと強化、○他
のステークホルダーとの重層的なネットワーク形成の4つを
推進の柱に、フラットな立場でコーディネートする、民間
ユネスコ協会らしい取組を、今後も継続していく予定です。

担当者からのメッセージ

平和への希求が根底であるユネスコ活動にSDGs推進の取組を入
れることがすんなり心に落ちていない会員もいる中、2017年
にESD/SDGs委員会を立ち上げました。第1回市民講座が「今
伝えたい地球温暖化最前線の国・キリバスのこと～いつまで
他人事?」。その後、地球温暖化による気候災害の頻度が年々
高まり、経済活動や消費者の動向にも大きな影響を及ぼし、
企業がその対応に動くことが急務となっています。今やセ
クターを超えた対話や連携してのSDGsの推進が必要で、当
協会にとっても初めての企業連携の試みでした。参加者アン
ケートには、「ためになった」「次回の開催を望む」などの感
想をいただき、新しいつながりの姿も見られ、開催の手ごた
えを感じました。



ESD/SDGs委員会担当副会長
内藤 恵子さん